

# NOSAIの技術情報



No. 2

平成18年7月10日  
神奈川県農業共済組合

## 追肥時期は自分の目で確かめてから

今年の水稲の生育は平年に比較して1日程度遅れていますが、概ね順調に推移しているようです。このため中干しや追肥時期は、平年より1～2日遅くすると良いようです。

### 追 肥

- 1 追肥の効果
  - ・一穂粒数の増加
  - ・登熟の向上
- 2 追肥判定の目安
  - ・追肥は幼穂長1cmの時
  - ・「キヌヒカリ」は出穂期の15日前に窒素成分で2kg/10aを施用。
  - ・「さとじまん」は出穂期の12日前頃窒素成分で2～3kg/10aを施用。
  - ・葉色が黄色く退色したら追肥をします。
- 3 追肥の注意
  - ・窒素成分の高い灌漑水が入っている水田は追肥を減らします。
  - ・葉色が濃く茎数の多いときは下位節間が伸張り倒伏しやすいので追肥を遅らせるか止めます。

### 水管理

- ・穂ばらみ期（出穂の2週間前）から出穂期は最も水が必要な時です。
- ・無効分けつ期（出穂の1ヶ月前）に中干しを3日から5日間行い、軽く亀裂が入る程度とします。生育過剰の場合は中干しを長く、生育不足の場合は短くします。
- ・登熟期は間断灌水をします。（根の活動を維持）
- ・落水はなるべく遅くします。（登熟と胴割れ予防）

（資料提供：農業技術センター普及指導部 7月5日現在情報）

7月20日前後になったら  
稲株の中から太い茎を1本抜き  
取り、カミソリで縦に茎を切り開き、  
幼穂長が1cm以上になったら  
追肥をします。

